

①自然と文化・歴史を感じることができるまち

- 本町の特徴である水辺や緑などの豊かな自然環境や町内に点在する文化財、古墳や遺跡などの魅力的な文化・歴史資源を活かしたまちづくりに取り組む
- これら魅力的な資源を観光資源としても活用し、来訪者にとって、心地よいまちを演出する
- 水や緑と融和した市街地空間の形成、河川やため池、公園などを結んだ歩行者・自転車ネットワークの形成などを図る

②拠点の明確化と連携によるコンパクトな賑わいのあるまち

- 中心拠点(博多南駅周辺)と商業・住居拠点(仲・五郎丸地区)を公共交通体系の連携等により、より魅力的で広域から人が集い、賑わいのある拠点として、広域的で多様な都市機能の集積や利便性の高い住環境の整備などを検討する。
- 各拠点を明確化し、都市の各機能を拠点に集約させたコンパクトで効率的な「集約型都市構造」を構築する。

③少子・高齢社会に対応したまち

- 少子・高齢社会に伴う多様な居住形態に対応した魅力ある住環境を整備し、安全で快適なユニバーサルデザインのまちを目指す。

④誰もが安心して快適に暮らせるまち

- 道路、河川、公園などの安全性を高めるとともに、災害に強い建築物による市街地の形成を図る。
- 歩行者ネットワークやバリアフリーなど、誰もが自由に行動できる空間づくりを推進する。

⑤環境に優しいエコロジカルなまち

- 今後は、必要な都市基盤整備を進めるとともに、これまで蓄積された都市基盤の活用や、適正な維持管理、効率的な更新を行う。
- 豊かな自然環境を保全し、緑の創出に努めるとともに、過度にマイカーに依存しない交通体系の確立など、環境負荷の少ない低炭素型のエコロジカルなまち(エコ・コンパクトシティ)を目指す。

- 国史跡 安徳大塚古墳保存活用計画策定
- 那珂川遊歩道整備基本構想策定
- 五ヶ山クロスオープン
- 中ノ島公園～五ヶ山ダム周辺における周遊性向上のための「水源地域基本構想」の策定を検討中
- 五ヶ山ダム周辺整備事業による吉野ヶ里町との連携
- シェアサイクルサービス導入

- 博多南駅前ビルリニューアル(小規模オフィスやイベントスペース等の機能を追加)
- 仲・五郎丸地区について、ふれあいこども館整備等による商業・住居拠点の強化
- 集約型都市構造の構築、拠点機能の強化・連携を目指し、立地適正化計画の策定を検討中
- 道善・恵子地区における新市街地の創出検討
- 博多南駅周辺と仲・五郎丸地区を結ぶかわせみバス路線を新設(南駅・ミリカ線)
- 山田交差点周辺における沿道利便施設、医療・福祉施設の誘導及びバス乗り継ぎ拠点整備

- 幹線道路のバリアフリー対応工事実施中
- 安徳・岩戸公園バリアフリー対応工事
- 福祉のまちづくり計画に基づき、新設する公共施設についてはすべてバリアフリー対応済
- 二世帯住宅の需要増加を想定し、片縄・恵子地区の第1種低層住居専用地域について容積率を緩和
- デマンド交通の実証運行

- 急傾斜地対策工事
- 床上浸水対策緊急事業や五ヶ山ダムの整備による水害リスクの軽減
- 公園施設の整備・更新、防災対応
- 公共施設へのアクセス道路の歩道整備
- 住宅の耐震改修費に対する補助制度

- 公共施設等総合管理計画策定(H29.3)
- 全ての公共施設について個別の維持更新計画の策定を検討中
- 荒廃森林整備事業等による山林環境保全
- 3000㎡以上の民間開発にあわせて、緑地を確保し緑を創出
- 植樹活動
- 市役所本庁舎の省エネ化
- 小中学校に太陽光発電設備を設置

■市民意識調査結果の比較(H23⇒H28)

○自然環境を保全する			
満足度	3.31(3)	▶	3.43(2)
必要度	4.34(2)	▶	4.28(6)
○人や郷土を大切にすることを涵養する			
満足度	3.19(7)	▶	3.23(5)
必要度	3.85(18)	▶	3.89(19)

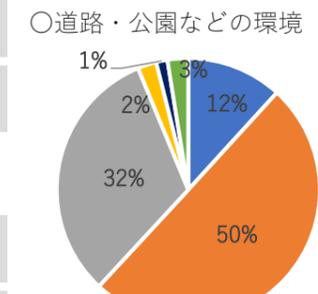
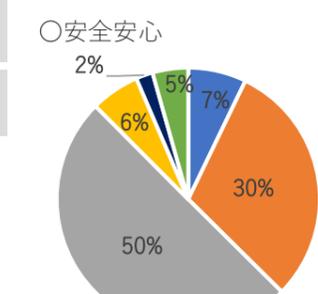
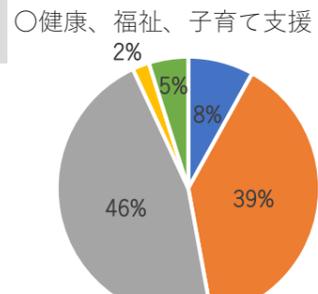
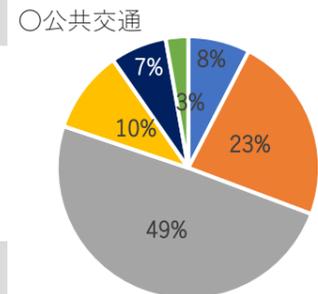
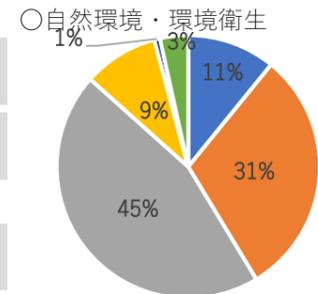
○安心して快適な生活基盤を整備する			
満足度	3.00(16)	▶	2.93(19)
必要度	4.26(3)	▶	4.41(2)

○快適に暮らすための生活環境を整備する			
満足度	3.19(6)	▶	3.20(6)
必要度	4.10(10)	▶	4.21(9)

○安全に暮らすための基盤を整備する			
満足度	2.89(20)	▶	3.37(3)
必要度	4.39(1)	▶	4.43(1)

○環境を守る基盤と体制を整備する			
満足度	3.48(1)	▶	3.51(1)
必要度	4.21(6)	▶	4.22(8)

■10年前との比較



■かなり良くなった ■やや良くなった
■変わらない ■やや悪くなった
■かなり悪くなった ■無回答

資料：各年市民意識調査
※()内の数字は22項目中の順位。H29以降は設問変更のため比較できない

資料：総合計画策定にあたって実施したアンケート調査(R1年9月実施、N=433)

「観光資源の活用」について、五ヶ山クロスのオープンをはじめ、自然環境を観光に活用する取り組みを行いました。「文化・歴史」について、安徳大塚古墳の保存活用計画を策定しました。一方で、水や緑と融和した市街地空間の形成については、個別計画に位置付けたものの実現にいたっていない事業が多く、継続した取り組みが必要です。また、「自然環境」について、アンケート調査によると、10年前と比較して「悪くなった」との回答が1割程度みられるため、継続した取り組みが必要です。

「拠点の明確化」について、博多南駅前ビルのリニューアルなど中心拠点の機能強化を行いました。博多南線の利用者数も増加しています。商業・住居拠点についても継続して機能強化のための検討を進めている途中です。
「連携」について、かわせみバスのダイヤ改正や路線の見直しによって利用者が増加しましたが、アンケート調査において、公共交通が「悪くなった」との回答が2割弱を占めるなど、依然として課題であり、継続した取り組みが必要です。
アンケート調査を見ると、「安心して快適な生活基盤を整備する」は必要度が高いものの、満足度が低く、重点的な取り組みが必要です。

「多様な居住形態に対応した住環境」について、二世帯住宅の需要増加を見越した容積率の緩和や、デマンド交通の実証運行などを行いました。
「ユニバーサルデザインのまち」について、道路や公園、公共施設のバリアフリー化など改善に努めてきました。アンケート調査における満足度や必要度に大きな変化はありませんが、今後の高齢者の増加を見据えて、継続した取り組みが必要です。

「安全性向上」について、床上浸水対策緊急事業などの事業を実施し、アンケート調査でも市民の満足度が急増するなど、一定の成果を發揮しましたが、依然として必要度が高いため、継続した取り組みが必要です。

「都市基盤整備」について、道路・公園・上下水道等の整備に努め、アンケート調査においても半数以上の方が「良くなった」と回答するなど、一定の成果を發揮しました。